

長崎検定

一級さん

Vol.19

長崎検定一級に合格して

澤田忠和さん

合格率十二・二％。長崎歴史文化観光検定の最難関を突破した一級ホルダー。その卓越した識見には、なにやら一家言ありそうです。
さつきはらんに寄稿願いました。

友からの年賀状で、中国の現代詩人・沙猛海の「七十多得稀」(七十になったらしっかり勉強して、多くの知識を得るよう努力しなさいの意)を知り、これから何を勉強しようかと考えました。

そんな折、長崎街道ネットワークの会で、街道を歩いていたら、今歩いている道を江戸時代、千余人の遊学者が長崎を目指して歩いたと聞きました。多くの人をひきつけた長崎の歴史・文化等について、勉強を始めようと思いついた。思いその手がかりとして、長崎歴史文化観光検定を受験した次第です。

平成十九年一月、第二回長崎検定の二級に合格。翌二十年一月、一級検定を受験しましたが、僅少点不足で不合格でした。

平成二十年は自治会長に選出され、またここやか長寿大学の専門課程の履習等と相まって受験を断念しましたが、どうしても諦めることができませんでした。

翌二十一年、任期一年制の自治会長を終え、

九月に長寿大学校も卒業できましたので、十月から受験準備を始めました。

「公式テキストブック」「旅する長崎学」「長崎市の文化財」等を基本教材として、基礎的事項について内容・分野別にまとめて、おぼえることに努めました。しかし一歳年をとったことによる記憶力の低下は予想以上でした。「脳のリハビリのために」「やればできるはずだ」と自らを叱咤激励しながら取り組みました。長崎生まれの人から聞いた昔の話は参考になりました。

二度目の挑戦で合格することができました。得たものは多々あります。その一は年齢を重ねてもやればできるという自信がもてたこと。

二は脳の働きが少し活性化したかなとの思い。そして長崎について学習を続けようと思ったことです。また合格者の中で最高年齢者だったので、長崎新聞に取り上げられ多くの人から声をかけられました。そのことは長崎検定について関心を持ってもらったことになり喜

んでおります。

検定に合格したとはいえ、長崎の歴史・文化・観光の内容は、広く深い世界。これからも講座や研修会に参加し、本を読んで勉強を続けるつもりです。

受験後、ケンペル著「江戸参府日記」、カッテンディーケ著「長崎海軍伝習所の日々」、シーボルト著「江戸参府紀行」、ボンペ著「日本滞に見聞録」等を読みましたが、多くの遊学者がやって来た長崎は本当に魅力多い先進地だったと思います。



【プロフィール】

昭和9年朝鮮鎮海で生まれる。戦後対馬に引揚。長崎大学学芸学部卒。平成6年長崎市立三川中学校定年退職。長崎街道ネットワークの会々員、長崎市滑石公民館運営協力委員。